



うちのイチ押し!

講座・イベント・展覧会などの詳しい内容を紹介するコーナーです。

今回ご紹介するのは 中央青年センター「若者広場サエラ」です。

“若者広場サエラ”は、青年層(あるいはその保護者)で、社会に出て行くことに不安を持ったり、社会参加はしているけれども不安やなんとなく居心地が悪いと感じている人たちに対して、それぞれの課題にそった必要な情報を提供し、社会参加へのお手伝いをしています。

“サエラ”というのはフランス語で「あちらこちら」というような意味。特別な場所ではなく気軽に訪ねていただきたいという思いから名づけました。

仲間同士の「交流会」や、講師とともに気軽にアートを楽しむ「美術部」、保護者がお茶を飲みながら気持ちを話し合える「茶話会」、青年期のころを読み解くためのニート・ひきこもり問題についての研修会など、各種の行事をNPO法人淡路ブラッツの協力を得て実施しています。(P9をご覧ください)

いつでも気軽にお越しください。



若者広場サエラ

まずは利用登録をしてください。
相談は1回につき20分程度です。(無料)

開設時間: 月・火・土曜 11:00~16:00
水曜 15:00~20:00
(祝日の場合は11:00~16:00)

場所: 中央青年センター
(中央区法円坂1-1-35)
2階リーディング内サエラスペース

問合せ: TEL)06-6942-0400
FAX)06-6945-4833

ホームページ: <http://www.chu-sei.com/saera.htm>



おおさか歴史探訪

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

難波八阪神社の綱引神事

浪速区にある難波八阪神社に、古くより知られた綱引神事と呼ぶ年頭行事があります。江戸時代後半の『摂津名所図絵』という地誌に絵入りで紹介されていますが、それ以前の近松門左衛門の「平家女護島」(享保4年、1718年)にもこれに関する記載があり、当時すでに大阪を代表する行事であったことがわかります。

もともとは文字通り「綱引き」をして、勝った方がその年の福を得るといふ年占いの行事だったのですが、幕末から明治初年にかけて綱が「八岐大蛇」の形に変わります。神社のご神体が素盞鳴尊であることから、出雲で八頭の大蛇を退治した故事にならって八頭八尾の大蛇をかたどるようになったといわれています。

綱引神事は現在は1月第3日曜日におこなわれています。早朝より氏子が集まり、縄を縫い、綱をつくります。綱は長さ約30メートル、太さ45センチ、重さ約300キロの巨大なもので、これをつくるためには多くの氏子の手が必要です。綱ができあがると頭を恵方えほうに向けて綱引きをし、その後「難波の綱引き、ヨーイヨイ」と太鼓に合わせて掛け声をかけながら神社のまわりをまわります。

かつては氏子地域の全域を巡行し、数箇所あるお旅所に渡御するというようにしていましたが、交通事情の変化などにより今の形になりました。都市化によるさまざまな変化を受けながらも、地域の人々によって伝統ある行事が受け継がれてきたことは貴重であり、平成13年に大阪市の民俗文化財に指定されました。

(文:教育委員会文化財保護担当 / 写真:難波八阪神社)

